

特集

# 防災新時代2024

## 防災地域連携協議会の始動

### ～地方創生を活かし、防災の先導を目指す

(一社) 防災安全協会  
理事長  
齋藤 実



2024年の新春を迎え、お慶び申し上げます。

本年は、世界は政治、経済をはじめとし激動の様相を呈する1年かと思われま。

この度、小協会では、地方創生の推進と取り組んでいる山梨県小菅村（村長船木直美）を中心モデルとし、防災を基軸とした官民協働で地域連携した事業体である防災地域連携協議会（略称・防地連）を任意団体として立ち上げました。

そこで、民として提案できる防災事業を防地連で組み立て、災害時に提供できる体制と備蓄品等を協議会で斡旋し提出して参ります。

つきましては、会員社様にもぜひご参画していただき、自然災害などによる緊急時に役立つ防災製品等のご提案、地域創生に根差した先導的な購入システムを構築していく方針です。

まず、小協会では、災害時における防災、減災に役立つ製品の供給と備蓄管理を担います。

ここでは、連携を図る中間組織をご紹介します。

(一社) 日本カーツリズム推進協会（会長川崎康一郎）では、車両が災害対策本部に、蓄電池、蓄光板、トイレ、シャワー、キッチン完備、寝泊もでき、既に小菅村、草加市と災害協定締結、全国の市町村とも今後締結していきます。

NPO 法人日本プール安全管理振興協会（理事長北條龍治）とは、災害時に役立つ学校等のプールのネットワーク化を、実施管理。これより、プール水の水质検査を行ない、生活用水



災害対応のキャンピングカー



災害用トイレ・トレーラーハウスの活用



災害用ドローン



多摩源流 小菅村  
KOSUGE Village  
小菅村ロゴマーク

として使用が可能となります。

また、広域に（一社）ドローン大学校（代表理事名倉真悟）とは、日本初の防災ドローンに特化した「防災小型無人機操縦士」を本年2月開講します。既に、二等操縦士の資格取得者が全国に約1,000名おり、災害対策に向けた新たな人材が新しく誕生します。

さらに、（一社）地方自治マネジメントプラットフォーム（代表理事谷畑英吾）が発行する「首長マガジン」で毎号全国の首長らを取材、記事としてパブリシティや情報を発信し、次号の防災特集で連携していきます。

さあ、防災新時代に向けて、始動して参ります。



# 防災地域連携協議会 (略称)防地連 ～地方創生を活かし、防災の先導を目指す

## ●協議会趣旨●

地方創生の推進を目指し、防災の総合的見地から、  
まちとひとの安全を守ることを中心として捉え、  
地域行政と関連団体の連携を図り、  
さらに民間との協働で、先導的な事業プロジェクトを形成するため、  
新しく任意団体「防災地域連携協議会」(略称防地連)を設立する。

## 協議会メンバー①

中心自治体▶災害時の拠点と近隣地町村との広域連携を図ります。

## 山梨県小菅村

<http://www.vill.kosuge.yamanashi.jp/>



## 協議会メンバー②

**中心自治体**▶災害時の連携団体です。(順不同)

(一社)防災安全協会 ●<https://bousai-anzen.com/>

(一社)日本カーツーリズム推進協会 ●<https://jcta.jp/>

(一財)日本トレーラーハウス設置検査機構 ●<https://jtio.or.jp/>

(一社)地方自治マネジメントプラットフォーム ●<https://mgpf.jp/>

(一社)ドローン大学校 ●<https://dronecollege.ac/campuses/>

NPO法人 日本プール安全管理振興協会 ●<https://www.poolsafety.jp/>

## 協議会メンバー③

**協会推奨品会員**▶災害時の連携企業です。(50音順)

**エリパワー株式会社** ●災害時のポータブル電源や蓄電池を供給(約20年長寿命)。

**ジャパン建材株式会社** ●災害時に土のうを保管するステーションや10年耐久の土のうを供給。

**株式会社センチュリー** ●災害時に役立つ国産の防災ドローンを供給。

**株式会社東京商工社** ●災害に備えた、防災倉庫や資機材、防災グッズを供給。

**ファシル株式会社** ●災害に備えた、キャビネット、トイレ、車載搭載品等を供給。

**株式会社大和バイオテック** ●プールや施設の水を生活用水に変える浄水剤を供給。

**雷電株式会社** ●災害に備えた、蓄光製品や携帯用水電池等を供給。

### 主な備蓄品



屋外蓄光板



長寿命蓄電池



備蓄スタンド



防災用除菌消臭液

## 防地連の主な事業

### 2024-2026

1

災害時に対応できる蓄電池を搭載したキャンピングカーやトレーラーハウスを活用し、ドローン操作等により事前、事後の対策も事業化を図る。

2

地域、学校プール等の水質検査を行い、ある培養液を入れ浄化されたプール水を、平時は生活用水として災害時には有効活用できる事業体制を連携し構築する

3

防災サミットを開催し、「首長マガジン」等で情報発信し共有する。

4

ドローン防災の活用で、知る・伝える・運ぶ等、攻める防災を推進する。

上記事業は、地域創生推進交付金制度に申請できる事業推進を図り実現を2024-2026の3年で目指します。

## 防地連の主な活動日程

### 2024前半～

2023年	12月15日	第1回zoom会議開催
2024年	1月中	協議会、zoom会議定期開催、助成金計画
	2月16日	「防災経営者フォーラム」講演:石破茂、フォーラム予定
	2月20-22日	「防災産業展2024」共同出展 防災ドローン・セミナー予定
	2月下旬	「防災小型無人機操縦士」開講予定
	3月中旬	「首長マガジン3号」特集・防災発行予定
	3月下旬	「小菅村・防災サミット」開催予定
	3月末	「防災ハンドブック2024」企画特集・防災DX 刊行

# 防地連の有機的な展開、広報戦略



2/20-22  
開催

## 防災産業展

協会内に防地連のコーナーにて各団体のPR訴求に対応します。



3/中旬  
発行

## 首長マガジン

全国市町村約2800首長を対象とし、防災・防地連を特集します。



3/末日  
発行

## 防災ハンドブック

自治体危機管理課や消防署へ配布し、防地連をPRします。

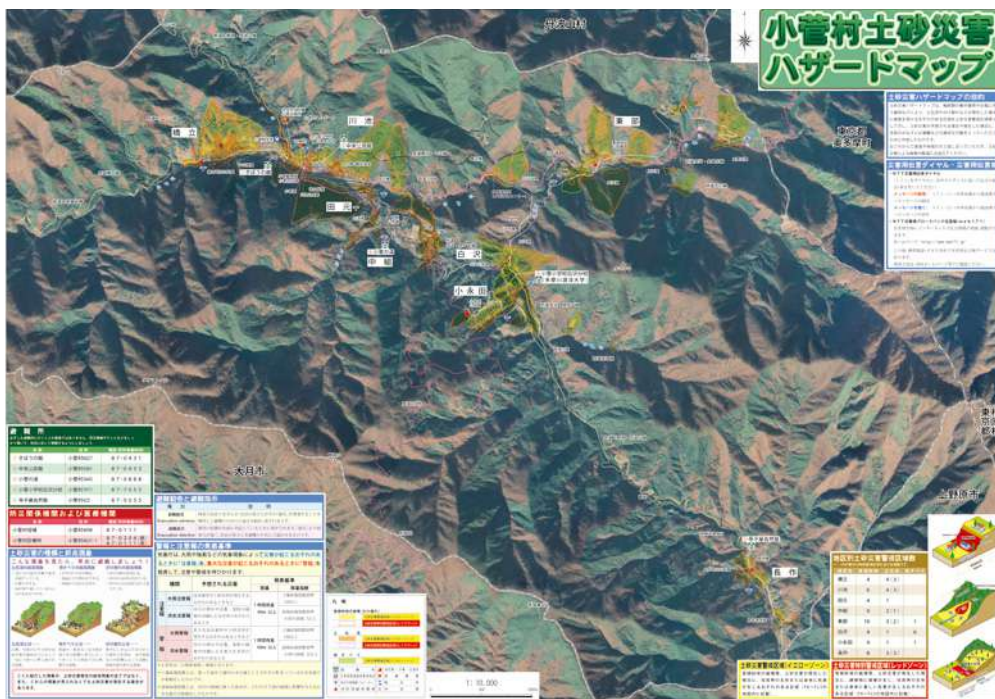
# 防地連の長期計画 2024-2026

2024年	4月～	① 防災倉庫等の提案、収納する備蓄品の選定等、補助金予算化
	6月～	② 防災倉庫の設置場、・村役場・道の駅・学校プール脇、8集落、点検等検討
	9月～	③ 小菅村防災訓練実施、キャンピングカーを災害本部、防災ドローン実証実験
	11月～	④ 大地の恵みまつり、防災コーナーの展示、即売、プール水の活用
2025年	1月～	⑤ 防災資機材、備蓄品の提案、予算化
	4月～	⑥ 防災資機材、備蓄品の納品
	9月～	⑦ 小菅村防災訓練実施、キャンピングカーを災害本部本格始動
	11月～	⑧ 大地の恵みまつり、防災コーナーの展示、即売、プール水の活用
2026年	1月～	継続事業

●小菅村ハザードマップ



●小菅村土砂災害ハザードマップ



●小菅村 DATA

小菅村は秩父多摩国立公園内にあり、都内を貫流する多摩川の源流部に位置する。東西14km、南北7km、総面積は5,278ha、標高は奥多摩湖面の530m5～780mの間から大菩薩連山の2,000mまで高低差に富む。森林が総面積の約95%を占め、約3割の1,630haが東京都の水源かん養林。橋立、川池、田元、中組、東部、白沢、小永田、長作の8つの集落で構成。

<p>①人口：642人（男性330人、女性312人） 世帯数：336世帯（令和5年10月現在）</p> <p>②観光資源：道の駅こすげ、多摩源流・小菅の湯</p> <p>③私有林人工林面積：1,123ha 林業就業者数：23人</p> <p>④アクセス 車：奥多摩駅より→（国道411号）→（国道139号）→小菅村（約30分） 車：青梅ICより→（国道411号）→（国道139号）→小菅村（約70分） 電車：中央本線・新宿駅⇒立川・青梅経由⇒奥多摩駅約1時間50分、バス・奥多摩駅⇒小菅村約50分 中央本線・新宿駅⇒立川・八王子経由⇒大月駅約1時間25分、バス・大月駅⇒小菅村約50分</p>	
--	--

ご案内

# 「2024賀詞交歓会・防災経営者フォーラム」

開催日

令和6年2月16日(金)

受付14:30～

フォーラム 15:00～17:00 賀詞交歓会 17:00～19:00

会場

東京會館

東京都千代田区丸の内 3-2-1

TEL 03-3215-2111(代)

会場アクセス <https://www.kaikan.co.jp/access/index.html>

## 1部 基調講演

■「地球沸騰時代 日本の防災対策は大丈夫か」

石破 茂 衆議院議員



## 2部 フォーラム

■「大規模自然災害に対応できるか～日本の防災・備蓄、食料危機対策」

司会 ● 青山 侑 明治大学名誉教授、元東京都副知事

パネラー ● 今野正義 日本食糧新聞社代表取締役会長

山村 武彦 防災システム研究所所長

谷畑 英吾 首長マガジン代表、前全国市長会副会長

野口 英一 元東京防災救急協会防災事業本部長



## 3部 賀詞交歓会

ゲスト ● 小池百合子  
東京都知事(予定)  
ほか



# 日本初防災を担うドローンオペレーター 防災小型無人機操縦士 Disaster Prevention Unmanned Aircraft Pilot



自然災害や災害応急対策などの防災現場では、広域の現状を迅速に知る必要があります。俯瞰した映像やデータを収集できるドローンがあれば、危険地域に人が立入らなくとも、迅速に情報収集が可能です。また災害復旧現場における物流にドローンを導入することでアクセスが困難な場所に食糧や救急医療品を迅速に輸送することも可能になります。

しかし、ドローンの運航に必要な知識・技術は多く、危機管理の場面においては平時に増して卓越した運航スキルが必要です。それらの危機管理の場面におけるドローンの運航に必要な知識・技術の修得をめざし、独自の資格「防災小型無人機操縦士(Disaster Prevention Unmanned Aircraft Pilot)」が誕生しました。

## 防災小型無人機操縦士とは？

国土交通省発行の「二等無人航空機操縦者技能証明」取得を通して、ドローン運航に必要な知識・技術を修得した上で、被災地等の状況把握に必要な空撮・測量・赤外線動画撮影や物流に用いる産業機体の操縦なども経験します。これにより防災現場の状況把握から被災地でのドローン物流ができるドローン操縦士を目指します。

二等無人航空機操縦者技能証明 × 空撮技術 × 産業機体操縦技術  
× 測量技術 × 操縦技術

二等無人航空機操縦者技能証明に加え、空撮・測量・赤外線動画撮影や物流に用いる産業機体の操縦練習と防災安全講習を受講することで、一般社団法人防災安全協会が発行する独自の資格「防災小型無人機操縦士」を取得できます。

## 開講スケジュールは？

第一期・受講申込受付期間●2024年1月9日～2月3日  
開講●2024年2月29日より3月3日までの4日間  
会場●東京三田・ドローン大学校講義室 ほか予定

- 1日目 学科8時間 学科(CBT)対策講義
- 2日目 実地8時間 実地(基本)実習・審査
- 3日目 実習8時間 空撮・測量・赤外線・自動操縦実習
- 4日目 実習8時間 産業機実習・防災安全講習

※開講前に予習・トイドローンの操縦練習をしていただきます。

本講座では、二等無人機操縦者技能証明の知識と操縦技能を学び、更に他の二等無人機操縦者技能証明の取得講座では学べない災害現場で役立つ特別な知識と操縦技能を習得していただきます。本講座を修了することで二等無人機操縦者技能証明の国家試験の技能試験免除が受けられます。

## 受講料金は？ ¥349,000 (税込)

受講料・教材費・機体レンタル料・実地(基本)審査料・防災小型無人機操縦士認定証発行料・昼食代を含みますが、二等無人航空機操縦者技能証明書取得に関わる身体検査料・学科(CBT)試験料・国交省発行技能証明書発行料は含まれません。詳しくは下記QRコードからお問合せください。



一般社団法人防災安全協会

☎ 03-3700-1930

✉ ddp@bousai-anzen.com



※本号掲載の記事につき無断使用はおことわりいたします。



一般社団法人  
防災安全協会  
Disaster Prevention Safety Association

〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-13-7 ラ・フィオーレ2F  
TEL 03-3700-1930 FAX 03-3700-1003  
<https://bousai-anzen.com>